

第4回未来の業務のあり方WT (2024年11月29日)

事務局資料



Build Beyond As One.

第4回未来の業務のあり方WT 次第

<日時・場所>

2024年11月29日（金） 14:00～17:00 オンライン開催（Zoom）

<議題>

1.WTの目的

2.医療扶助および介護扶助業務における意見収集・議論

（※途中で休憩10分程度を取る想定です。）

<配布資料>

資料1 第4回WT 事務局資料（本紙）

資料2 WT構成員名簿

資料3 業務フロー（標準仕様書2.0版）

資料4 前回までのWT意見とりまとめ表

1.WTの目的

1.3. WTの各回の検討テーマ

- 今年度のWTでは、効率化・改善された生活保護業務について議論します。
- 本日の第4回WTでは、ケースワーカーが行う業務のうち医療扶助および介護扶助について、効率化・改善された生活保護業務の姿、現状の生活保護業務と比較した際の課題、課題への対応方法について議論します。

検討テーマ

回数	テーマ	概要
第1回 (8月)	ケースワーク① (訪問関連)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 訪問予定の整理～訪問～訪問後の業務 ✓ 訪問前における準備等を含む
第2回 (9月)	ケースワーク② (自立支援等)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 就労・自立支援など、被保護者の自立に向けた各種支援業務
第3回 (10月)	ケースワーカーの行う業務 (4回目・5回目のテーマを除く)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 被保護者の自立を助長するためにケースワーカーが行う業務全般（生活保護申請・決定・訪問・自立支援・各種調査等含む）
第4回 (11月)	ケースワーカーの行う業務 (医療扶助・介護扶助)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 医療扶助・介護扶助に係る業務（医療券発券・介護券発券等の事務処理）
第5回 (12月)	ケースワーカーの行う業務 (経理・返還金・債権管理)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 支給や納付に係る業務 ✓ 返還金・債権管理、適正化に向けた調査等（返還金の起案処理等を含む）

※ 回数・テーマは現在の想定

第4回WTのゴール

以下について委員の皆様と議論し、整理します。

- ① **医療扶助・介護扶助業務が効率化・改善された姿**
- ② **①の姿と現状を比較した際の課題、課題への対応方法**

2. ケースワーカーの行う業務における意見収集・議論

2.1. 収集したい意見・議論したい内容

- 本日の議論で委員の皆様から意見を頂き議論したい内容は、**医療扶助および介護扶助業務のうち効率化・改善可能な業務、業務効率化・改善の実現に向けた課題と課題への対応方法**です。
- 業務効率化・改善の余地については次項や別紙資料の内容も参考にいただき、ご意見をお聞かせください。

① 業務効率化・改善の余地

- ✓ **医療扶助および介護扶助業務のうち、効率化・改善の要素は何か？**
- ✓ **業務効率化・改善の方向性は何か？**

※議論を進めるにあたり業務内容について認識の共有が必要な場合は、別紙「資料3 業務フロー（標準仕様書2.0版）」をご活用ください。
前回までのWTにおける意見について、別紙「資料4 前回までのWT意見とりまとめ表」に記載しておりますので、併せてご覧ください。

意見の観点（例）

- ・ システム化やシステムの機能変更によって、情報収集や知識の習得を効率化・改善できるか
- ・ 人・組織や体制を変えることで、情報収集の効率化・改善に繋がるか
- ・ 業務そのもののやり方を変えることで、事務手続きを効率化・改善できるか

② 業務効率化・改善の実現における課題・対応方法

- ✓ **効率化・改善された生活保護業務像と現状業務を比較した際にどのような課題があるか？
（課題への対応方法について想定があれば、併せて意見をお聞かせください）**

課題・対応方法（例）

- ・ 医療移送費の支給可否等の判断にシステムや生成AIを活用できると効率的だが、職員の知識不足や判断力の低下を招かないように、研修や知識習得の機会をどのように確保するか、効率的な研修や知識習得をどのように行うかが課題となる。
- ・ 被保護者への通院の付き添い等の支援を増やすためには、事務処理や手続き等の業務時間をどのように減らすかが課題となる。

2.2. 業務効率化・改善の要素および方向性

- 本日は医療扶助および介護扶助業務に関して、**情報収集、判断、行動（業務そのもの）**といった業務における**効率化・改善の要素、業務の効率化・改善の方向性**の観点から議論することを想定しております。

業務における効率化・改善の要素

効率化・改善の方向性	情報収集	判断	行動（業務そのもの）
減少	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集の時間 (例:介護認定の主治医意見書) 各種調査に費やす時間 (例:他法他施策の確認) 知識習得に費やす時間 (例:生活保護・他法他施策の理解) 	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集や行動にあたって判断に迷うこと (例:医療移送費等の支給可否) 適正な保護受給に該当するか判断に迷うこと (例:頻回受診・重複投薬) 	<ul style="list-style-type: none"> システムの操作・処理 (例:医療券・調剤券・介護券・要否意見書・オンライン資格確認※) 事務手続き (例:介護認定申請)
増加	<ul style="list-style-type: none"> 情報連携の体制・環境 (例:庁内他部署・他機関との連携体制、みなし介護機関情報の連携) 		<ul style="list-style-type: none"> 被保護者の状況把握 (例:通院の付き添い)

※本WT後に、オンライン資格確認の効率化・改善について追加の意見収集を行う想定です。追加意見や意見の補足等があれば、別途行う意見収集にてお寄せください。

議論時の意見とりまとめ用スライド

通常の業務の中でも、主治医訪問の機会があるが、対応している医療機関が少ない

医療扶助について、委託を受けていないと
請求が出来ない？
→オンライン資格確認に関連している
医療扶助の受託・未受託についての論理チェック機能

医療要否意見書の仕組み見直し
(オンライン化)
→実態は、医療券の交付が先となつて
→形骸化している部分
(発熱・風邪等の通院理由が明らか
単発で通院するもの)
(様式そのものが形骸化している)

業務における効率化・改善の要素

効率化・改善の

情報収集

判断

行動

頻回受診について、
医に訪問出来ない(書面の照会)
意見書の電子化・問い合わせの電子化

情報収集の時間
(例:介護認定の主治医意見書)

**情報収集や行動にあたって
判断に迷うこと**
(例:医療移送費等の支給可否)

システムの操作・処理
(例:医療券・調剤券・介護券・
要否意見書・オンライン資料)

サービス提供表を国に提供しているが、
社事務所における介護扶助の決定情報
について、データ連携できる仕組みがあると良い

各種調査に費やす時間
(例) 都道府県で決定している難病認定・
自立支援医療の情報について、連携が
紙資料となっている(データ連携が必要)
→他課が都道府県から受領している情報

療養費の判断が難しい部分は補助金を活用して
外部委託している(東大阪市の場合)
ケースワークに集中するための体制づくり(役割分担)

事務手続き
(例:介護認定申請)

指定医療機関の指定業務
国全体の指定医療機関のリストを
提供してもらえると、効率的

知識習得に費やす時間
(例:生活保護・他法他施策の理解)

療養費(はり・きゅう)の審査
→各実施機関で判断を行う部分が困難である
(支払基金を経由しないところであり、
各CWで判断することは困難・福祉事務所単位でも困難)
→審査件数が多い、基準に照らして判断することが難しい
→具体的な基準の明記が無い(国保の基準を参照している)
→国保の基準をCWが理解しきるのが難しい

過誤調整
→単独・併用について誤りがあると
保険者間での調整が
(ケースワーカーが訂正のために電話)

指定医療機関について、
新規の医療機関について、
電話等で医療機関コードを
確認するのが非効率的
なので、指定医療機関のリストを
共有してもらいたい
(地方厚生局のデータを)

医療・介護におけるデータ連携
を進めてもらいたい

医療扶助の決定
保護者ごと・医療機関ごとに
医療扶助を決定している
申請:傷病届→要否意見書
→嘱託医協議→決定の流れを毎回行っている)

力が無いため、
する必要が出てくる
ものなので、
ものではないため、
いても、医療機関が
ようにしてほしい

情報連携の体制・環境
例:庁内他部署・他機関との連携体制、
みなし介護機関情報の連携)

判断が不要なように
連携体制を構築する

被保護者の状況把握
(例:通院の付き添い)

医療機関同士の横の連携で、
持病状況を共有してもらい、
務所側の重複投薬の
り判断を減らしていく

オンライン資格確認を活用して、
より医療機関が保有している情報を
福祉事務所が
受け取れるようにしていきたい

医療機関コード(みなし介護機関)について、
システムに取り込める形式で提供してもらい、
月次で更新できると負荷軽減に繋がり効率的

指定医療機関制度そのもの